

府立東豊中高等学校

電話番号：06-6831-3045

Web: <http://www.higashi-toyonaka.osaka-c.ed.jp>E-Mail: z-higatoyo@sbox.osaka-c.ed.jp**主な研究テーマ**

「生徒の自己実現支援のための地域連携の促進」

I 学校の概要**1 創立年度** 昭和 46年度**2 教職員及び生徒数****(1) 教職員数** 56 人**(2) 生徒数**

	1 年	2 年	3 年	合計
学級数	6	7	7	20
生徒数	240	277	274	791

3 教育課程の状況

普通科高校として、3年次には、文系・文理系・理系のコース選択を実施し、平成 15年度から週 2日の 50分間 7時間授業を実施している。学校設定科目 (16科目)を含め多くの選択が可能となる新教育課程を設定し、基礎基本の充実をめざして、英語・数学での少人数展開授業を実施している。さらに、英語・数学・地歴科などで、講習 (早朝・放課後)を実施し生徒の個別の能力に応じた指導を行っている。

4 研究開発のための組織

昨年の本事業の成果を活用するため、各種の事業の連続性をもたせた。

【事業取組の流れ・評価等】

- 1 教職員による原案の検討
- 2 教職員による成果活用の検討
- 3 評価委員会による検証・活用方策について協議
- 4 教職員による検証結果の取りまとめ
- 5 評価委員会による検証結果を踏まえた協議と展開の方向性協議
- 6 職員全体への成果の報告と指導の充実に向けた方向性の検討

5 評価委員会の構成

地域自治会関係者、地元市立公民館職員、中学校関係者、本校卒業の大学生、地元の行政組織関係者、本校教職員

昨年度に引き続き、本事業の円滑な進行を図ると

共に、学校の運営の改善を効率的に検討するため、学校協議会委員とあわせて委嘱し、協議の内容を深めることとした。

【校内委員会等の開催】

- ・ 6月 27日 (火) 第 1回推進協議会 (大阪教育大学天王寺キャンパス) 3人
- ・ 6月 19日 (月) 第 1回校内 PT会議 8人
- ・ 7月 3日 (月) 第 2回校内 PT会議 7人
- ・ 10月 18日 (水) 第 3回校内 PT会議 6人
- ・ 10月 26日 (木) 第 4回校内 PT会議 8人
- ・ 10月 30日 (月) 第 2回推進協議会 (布施高校) 2人
- ・ 11月 9日 (木) 第 5回校内 PT会議 6人
- ・ 1月 23日 (水) 第 3回推進協議会 (大阪教育大学天王寺キャンパス) 3人
- ・ 1月 29日 (月) 第 6回校内 PT会議 8人
- ・ 1月 29日 (月) 取組事例視察 (吹田高校) 3人
- ・ 2月 7日 (水) 第 7回校内 PT会議 6人
- ・ 2月 16日 (金) 第 8回校内 PT会議 6人

【評価委員会議の開催】

第 1回 7月 12日 (水) 学校協議会・事業評価委員会

- ・ 学校の運営改善に向けた意見交換
- ・ 本年度の取組目標等に関する説明
- ・ 「府立学校経営革新プロジェクト事業」に関する本年度の取組について
- ・ 評議会委員への委嘱

第 2回 12月 7日 (木) 学校協議会・事業評価委員会

- ・ 東豊中高校の伝統を新校づくりに生かす方策について ～地域と学校の交流～
- ・ 本事業の取組に関する現状報告
- ・ 学校説明会報告

第 3回 3月 14日 (水) 学校協議会・事業評価委員会

- ・ 本年度事業成果の報告
- ・ 事業に関する評価
- ・ 来年度事業の取組に関する改善提言

II 事業計画**1 学校の状況と課題****(1) 学校の状況**

本年度は H17年度に実施した「学習状況アンケート」の結果を日々の生徒指導に活用するほか、保護者や学校協議会委員を対象とした授業公開や英語科の教員が『英語指導法』研修の一環としての公開・研

究授業に取り組んでいる。

(2) 学力向上に関する課題

明確な進路意識を持たせ、それに向かって全力投球する姿勢を持たせるため、生徒のみではなく、保護者をも対象に、外部講師を招いた進路講演会や進路相談会をいっそう充実させることが必要。

(3) 進路希望の実現に関する課題

約 90%の生徒が大学や専門学校等への進学を果たしている。体験講座の受講機会づくり、各分野で活躍する先輩との交流機会づくりなどが必要。進路の実現に向けて、学習に集中できる環境づくりを行うということからも、地域の人たちとの交流のさらなる充実を通じた、「地域のリーダーとなる」意識づけが効果を高めると考える。

(4) 生徒指導に関する課題

自覚を促すような粘り強い生徒指導を基盤に、多くの教職員が早朝指導などを行った結果、遅刻数が対前年比で 30%強減少するなど、大きな成果を示している。今後も、生徒自身が自分のものとして指導を受け入れ、自律的に行動できるような取組を継続する必要がある。

(5) 生徒の自己実現に関する課題

学校生活に満足感を持っている生徒が多いが、より高い目標に向かってチャレンジしようという意欲が弱い生徒も見られる。生徒に目標到達の経験を積み重ねさせ、達成感や自尊感情を高めることを通して、学習意欲の向上と規範意識の育成を図ることが必要。

2 教育目標

(1) 育てようとする生徒像

地域にしっかりと根ざした若いリーダーとして、時代の変化に対応しながら、さまざまな情報を収集し、適切に分析し、正しく判断し、主体性を持って行動できる自信に満ちた若者を育てる。

(2) 取組目標

- ア 学校生活を支援する教育相談体制の充実
 - ・進路や生活上の悩みに対する個別面談等の充実
 - ・思春期の生徒の課題解決に向けた多彩なアプローチを学ぶ研修の充実
- イ 確実な学力を身につける学習環境づくり
 - ・全職員による登校指導期間の設定

- ・教員の授業アンケートの実施

ウ 地域の団体・組織等との連携・交流活動の充実

- ・地域・中学生との交流活動の充実
- ・交流体験への参加勧誘
- ・大学等の高等教育機関、民間学習機関、福祉部局等の連携先の開拓

エ 従来からの取組総括に係る協議機会の充実

(2) 成果目標

ア 部活動への生徒加入率の向上 (80%をめざす)

イ 部活動成績の 1 ランクアップ

ウ 各種選考会への候補選手の被選出数

エ 第一進路希望の実現率 90%

オ 進路相談利用者数の 30%増

カ 生徒相談週間等への参加者数の 10%増

キ 遅刻者数の 30%減

ク 交流参加者 1000人、中学校教員参加 50人目標

III 事業の成果

1 教育実践の概要

(1) 教員の授業に関するアンケート

ア 現在の授業について

① 1時間の授業に対しての準備時間

1時間～2時間以上の回答が多かった。その中で、まだ十分とは感じられないという回答が 6割を超えた。きめ細かく準備をして生徒に理解しやすい授業を行いたい反面、校内の種々の仕事に時間がとられて、授業に十分な時間がかけられないジレンマを抱えている教員も多い。

②授業に対しての工夫

視聴覚に効果的に働きかける VIRや PC プリントを用いた授業がよく行われている。より多くの生徒への声かけ・注意・発問等も行われている。学習成果を実感する準備としての予習指導等、様々な教員側からの働きかけがある。

③授業を終わっての満足度

約 6割が「まあまあ」「ほぼ満足している」と回答している。残る約 4割は、「全員に理解させるのは難しい」等、意識や目標を高く掲げ、自分に厳しく評価していることによる。叱咤・激励・課題点検等が必要な状況もある。

④生徒の授業に対する理解度

「ほぼ理解している」に対して「理解していない

部分もある」が少し上回った。

⑤理解できていない生徒への指導

特別課題・ノート提出等の対応がなされている。

⑥授業が十分に理解できている生徒に対する、さらに実力をつけるための方策をとっているか

「はい」と「いいえ」がほぼ半数ずつであった。とっていない理由としては、理解度の足りない生徒の指導に時間がとられるという現状が挙げられている。一方、応用問題や進学用の補講や講習を行う等、限られた時間の中でも教員側の努力が伺える。

イ 授業時の生徒の様子について

①生徒の授業態度

満足・まあまあ・不満がほぼ同数である。

②生徒の努力度

努力しているのと、していないのは、約2：1の比率でしている方が多かった。

③授業態度や努力度についての不満

学習に向かう態度（忘れ物・おしゃべり・居眠り等）について、不満点がある。教員側の姿勢により変化するとの意見や不満がないという意見もある。

④不満な点に対する指導

基本的には繰り返し注意をするしかないとの意見がある。

⑤授業で悩んでいること

「注意しにくい生徒」が増えた、授業への取り組み方は「格差社会」になっている、等が挙げられる。その他、個々に悩んでいる点があり、それぞれ問題は大きい。悩みを悩みとして孤立させるのではなく、共有する機会や場所をもっと作る必要がある。

ウ 東豊中高校の学習活動について

①生徒の学習で、もっと伸ばしたい・足りないと感じているもの

回答が最も多い、生徒自身の精神性に関わる自分で考える力・表現力・感性・熱意・地道な努力・学習に対する意欲・集中力・探究心・積極性等で半数を占める。次に多いのが、家庭学習・日常の学習習慣・読書や新聞を読むこと等が挙げられている。また、学校又は教師の側の対策的な面として、意欲のある生徒のために、特進コース・勉強クラブを作ることが例として挙げられている。また、集団を大事にし、授業だけを特化するのではなく、行事や部活

動等、全体の取り組みの中で人格的に成長させる視点が必要という意見もあった。

②よりよい授業を作っていくために、教員に求められているもの

圧倒的に多い回答趣旨は、教師としての人間性と指導力と言えるのではないかと。人間性としては、広い知識・余裕のある心・バランス（強さとしなやかさ、厳しさと優しさ）・熱意と工夫・生徒と心が通い合う関係・信頼感・情報の共有・規律の大切さ・人間としての魅力等である。また、指導力としては、わかりやすい授業・興味を惹きつける授業・意欲を高める授業・勉強のおもしろさを実感させること等である。そのため、研究・研修・教材研究・授業内容の工夫が求められているという回答が多かった。

③学習活動を充実していくためのアイデア・ヒント・方法

回答の3分の2を占めたのが、少人数展開授業である。次に習熟度別編成・希望制または選抜による特進グループの設置、成績上位者の勉強会という回答もあった。他には、生徒に目標を持たせるために実力テストの成績上位者を掲示する、放課後の自主学習に教員を選任する、学習面生徒指導面等すべての面から教員がスクラムを組んで生徒に当たることが結果的に生徒の学習活動を充実させることになる、等の意見があった。

（2）教育相談体制の充実

昨年度に引き続き、毎月の相談便りの発行や、昼休みの相談室の開放などをおこなった。さらに教職員対象として、心理に関する知識と相談活動技術の向上をはかる研修を実施した。

ア 相談週間（4月、9月）

4月は新入生中心に、9月は全学年対象に設定した。

イ 教育相談に係る各種研修

①スクールカウンセリングスーパーバイザーによる研修

講師：臨床心理士 八尾 勝氏

6月 15日、12月 14日

共にケース会議計 6件 参加者 12人。

②精神科医による研修

講師：精神科医 赤垣伸子氏

・10月 3日「相談室登校の生徒への具体的支援」とケース会議。参加者 8人。

- ・10月 31日「精神科医(医療)と学校でできること、できないこと」参加者 20人。

ケース会議への参加者は 3人。

- ・11月 21日「軽度発達障害が疑われる生徒、相談室登校の生徒について」のケース会議。参加者 7人。
- ・1月 16日「軽度発達障害の理解と支援」とケース会議。参加者 11人。
- ・2月 6日「続・精神科医(医療)と学校でできること、できないこと」参加者 16人。

③臨床心理士による研修

講師：京都文教大学心理臨床センター専任研究員、
臨床心理士 串崎幸代氏
大阪大学院生 東井申雄氏(第2回)

- ・2月 1日 公開講座「箱庭研修と思春期の特性」
参加者教職員 6人。一般 1人。
- ・2月 9日「臨床の現場から～箱庭から見えてくるもの」参加者教職員 8人。生徒 8人。

ウ 教育相談委員会

毎月各学年の生徒の状況について情報の共有を行い、相談室だけでなく保健室とも綿密な連携をとって生徒の心の悩みに対応した。特に今年度は10月から2月までの間、相談室登校の生徒の支援を校内体制を組んで行った。

エ その他の校内職員研修

- ・7月 7日(金)「思春期の子どもと向き合う～進路を話し合う前に」NPO法人女性と子どものエンパワメント関西理事長 田上時子氏
- ・12月 4日(月)「中学校における人権教育の状況」
豊中市立第11中学校長 末本直道氏
豊中市立第11中学校教諭 斎喜慶三氏
豊中市立第3中学校教諭 谷 延戒氏

(3) 高校生のための親学習「明日の親のための講座」

豊中地域家庭教育協議会との連携により、ワークショップ形式の「親とは、家庭とは、人と人との関係とは」などについて学ぶ講座を実施した。

本講座は、全国初の「教育系列」をもつ総合学科高校「千里青雲高校」で開講される「ペアレンティング(親学習)」とつながるものである。また、大阪府教育委員会が開発した家庭教育教材『親をまなぶ・親をつたえる』を用いた初めての取組である。

- ・6月 19日～6月 27日 第1回ワークショップ「た

まごを使ったワーク」2年生保健授業として実施。
参加 270人

- ・10月 24日 第2回ワークショップ「親を知る」
参加 20人 講師(1、2回ワーク共に)：職業訓練協会インストラクター 水谷徳子氏、伴野多鶴子氏
- ・11月 10日「地域のお母さんたちとの交流会」
於千里公民館 参加 57人
- ・12月 19日「府立刀根山高校との交流会」
於豊中市教育センター 参加 51人



(4) 中高連携部活動交流

水泳部

○豊中市小学校水泳大会(模範泳法)への参加
8月 21(月)・22日(火) 於 豊中市立豊島温水プール、
豊中市立二ノ切温水プール 参加小学生 800人。

第51回を迎える伝統ある水泳大会であり、平成4年より模範泳法を行っている。高校生の泳ぎを間近に見せることで小学生に驚きと感動を与えている。本校生徒も日頃の練習成果の披露により緊張感と達成感を味わい、大きく成長した。

○豊中市市民水泳大会への参加

8月 27日(日) 於豊中市立豊島温水プール
参加小中学生 99人、中学生 102人、計 201人

第13回を迎えた本大会へ選手および運営補助員として参加。参加者は、豊中市内に在学・在勤する小学生から高齢者まで、競泳を通じて世代を超えたスポーツマンとしての交流を行っている。他高校生も参加するが、大会運営に組織的に協力するのは本校のみであり、生徒は感謝の気持ちを再確認し、ボランティア精神の一端を学んでいる。また、選手としても自己新記録、大会新記録を目標に競技に参加し

ており、競泳の楽しみ、勝利の喜びを体験している。

○豊中市水泳連盟及びスポーツ振興事業団との連携

豊中市スポーツ振興事業団に本校水泳部の卒業生が十数人勤務し、市内のプールのスタッフとして携わっている。また、豊中市水泳連盟にも本校卒業生が参画し「市民大会の運営」「水球教室の開講」「市民対象の研修会の開催」などに活躍している。

女子バレーボール部

○豊能地区中学校交流試合 7月 16日(日)

於本校第一体育館 参加中学校：豊中市 2校、箕面市 1校、顧問計 3人、生徒 55人。

○豊能・市内地区中学校交流試合 7月 30日(日)

於本校第一体育館 参加中学校：豊中市及び大阪市計 2校。顧問 2人、生徒 30人

○豊能地区中学1年生女子対象バレーボール講習会

9月 18日(月) 於本校第一体育館

講師：東豊中女子バレーボール部顧問及び部員 12人

福島女子バレーボール部顧問及び部員 7人

参加中学：豊中市 10校、箕面市 3校、池田・豊能 4校
顧問計 17人、生徒 147人

男子バレーボール部

○豊能地区中学校選抜交流試合

6月 3日(土) 於箕面市立第6中学校体育館

参加：豊中市立中学選抜(2校)、池田・豊能中学選抜(4校)、箕面市立中学選抜(4校) 顧問計 10人、生徒計 50人

○豊能・三島地区中学校交流試合

7月 17日(月) 本校第一体育館

参加中学校：豊中市及び大阪府中学校 2校

顧問 2人、生徒計 30人

○三島地区中学1年生男子対象バレーボール講習会

9月 23日(土) 於吹田市立第五中学体育館

講師：東豊中バレーボール部顧問及び男女部員 21人

参加中学校：摂津市 2校、茨木市 2校、吹田市 5校、高槻市 1校。顧問計 11人、生徒計 55人

女子バスケットボール部

○豊能地区女子バスケットボール交流戦

12月 17日(日) 本校第一体育館

参加中学校：豊中市 6校、箕面市 1校、池田市 1校
計 8中学校、生徒計 120人

地域の中学校と高校が交流を図ることを目的に昨

年度から実施している。

(5) 地域連携

ア ライフセービング教室 (あなたとあなたの大切な人の命を守るために…)

学校の人的・物的資源を地域に提供する試みとしてライフセービング教室を実施した。

日時：12月 8日(金) 13:00～15:00

会場：本校会議室

対象：地域住民、PTA 保護者、近隣中学校等

内容：人命救助の心得と緊急時の対応(講義)

簡単! とっさに役立つ救急手当(実技)

講師：本校職員(日本ライフセービング協会・日赤指導員)

参加は地域住民 13人であったが、継続期待の声など大変好評を得た。今後に繋がるものとする。

イ その他の地域連携交流活動

本校の生徒は、部活動や各種の学校行事に積極的に参加するなど、学校生活にはしっかりと帰属しようとしている。そのような生徒達にとって地域の一員として何らかの貢献を体験することは、学校生活全般にわたる活動の意欲を高めることにつながると思う。以下に具体的な活動をあげる。

・校外地域清掃 1年 11月 30日(木) 239人

2年 1月 18日(木) 265人

・新千里南町夏祭り：ダンス部 11人

・新千里西町夏祭り：吹奏楽部、ダンス部 計 47人

・新千里南町文化祭：書道部、フォークソング部 計 64人

・中高生読書の集い「ホンヨモ! セッション大阪」：1人(企画運営者として参画)

・障害者の自立を支えるネットワーク「豊中サポネクリスマス会」：11人

・箕面養護学校との音楽交流会 12月 19日(火)
吹奏楽部 26人

2 教育実践の成果

(1) 教員の授業に関するアンケート

本年度実施した教員の側の授業アンケート結果では、生徒の学習の問題点や、教員の努力や工夫の様子などが明らかになり、学力向上のために何ができるかを考えていく糸口を見つけることができた。

(2) 教育相談体制の充実

今年度は特に、10月から2月末にわたる相談室登

校の生徒への支援が奏功し、進路実現につながる結果を得たことは大きな成果だった。また、精神科医、臨床心理士など、専門家による教育相談に係わる各種の研修により、教職員の意識改革や理解促進ができた。生徒対象の箱庭研修では、心理学に興味のある生徒たちが参加して、自分自身の内面を見つめ、自尊感情を育てていく過程も実感し、有意義なものとなった。

その他の研修を含め生徒を理解するための各種の研修は、15回にのぼった。教職員は、教育現場と医療や福祉、地域、警察等外部の専門機関との連携の重要性を認識することができた。

(3) 高校生のための親学習「明日の親のための講座」

第1回ワークショップ(卵のワーク)のアンケート結果によると、生徒たちの圧倒的多数は、新鮮で興味深く参加できたと答えている。その後の交流活動は、自主的に参加した生徒たちであり、非常に前向きに受け止め、有意義な体験として捉えている。このことは、一斉講義型の授業とは違った形式の、既成の枠に捉われない視点の教材効果を発揮していることを示している。その意味で、本講座の取り組みは今後に大きな力と示唆を与えてくれるものである。

(4) 中高連携部活動交流

多くの中学生・部顧問に、本校の雰囲気を感じ施設を実際に使用してもらうことができた。また、中学生の「やる気」や「レベルアップ」の大きな動機付けにもなっていると評価されている。さらに、中学生と一緒に練習したり指導・アドバイス等をするによって、本校生の自信や意欲の向上に繋がった。

(5) 地域連携

本プロジェクトの目標のひとつは、地域と学校との教育資源を総合的に活用するシステムづくりである。前述のさまざまな活動を通じて、生徒達は日頃の活動では体験できない達成感や、主体的に企画したり行動することの喜びを体験し、地域からも喜ばれると同時にさまざまな協力を得ている。

本校西側にある千里緑地公園を管理するボランティア団体代表の方から手記を頂戴したので紹介する。

東豊中高校の生徒の皆さんへ

広い千里緑地公園を13人の愛護会員で管理しています。公園は安全が第一で、次に美化でありゴミのない優しい公園が私達の

願いです。毎日会員が巡回して不法投棄・危険箇所・樹木の給水や病気など、細かく点検しています。以前は、雑草にゴミ、不法投棄の山で、樹木は茂り放題、人の出入りもできず、恐い所と言われていました。今日では賑やかな場所になって、高校生がよく園内を走っています。東豊中高校の各運動部員でしょう、公園内での行動が安全に大きな貢献をされています。生徒さんたちが公園の清掃をする話を聞き、池田ケーブルテレビに話しますと、「今時そんなよい学校があるのですか、是非是非に行きます。」との返事で、有難く思いました。私代表者として生徒さんたちに感謝しています。高校生の練習活動によって不法投棄もありません。公園内に屑籠もありません。愛護は安全確保と美化に取り組んでいます。1月には70本の植林をしました。東豊中高校は緑の多い学校で、よい環境に恵まれています。学校生活を元気で明るく楽しく過ごされることを願います。私たち愛護会も元気に美しい公園造りをめざして緑地公園の管理を続けていきます。

千里緑地愛護会代表 豊丸 五男

3 目標の達成度

(1) 取組目標

ア 学校生活を支援する教育相談体制の充実

本校では、中学時代を大きな問題もなく過ごしてきた生徒が多いため、心の問題等に直面したときなかなかうまく助けを求めることができないことがある。教職員は生徒の心の悩みを特別なものと考えず、生きていく中での1つの通過点にとらえ、共に生徒に寄り添い、生徒の話を傾聴していく姿勢を身につける研修に参加し、教育相談に対する理解を深めることができたと思われる。

生徒理解を助ける他の研修も充実度は増した。

イ 学習意欲の向上と確実な学力を身につける学習環境づくり

生活指導部を中心に校門指導を行う等、生徒の学習活動を常に見守る態勢作りをする一方で、授業アンケートを通じて、よりよい授業作りから、生徒の進路希望実現に向け、どのような対応が必要かを、教職員の共通認識とすることができた。

ウ 地域の団体・組織等との連携・交流活動の充実

教育実践の項目にあげた地域連携の概要・成果と重複するが、取組目標は達成されたと考える。

エ 従来からの取組総括に係る協議機会の充実

本年度の研究課題取組を円滑に進めるために、推進組織の中で役割分担を行い、主担当者を決め

て少人数単位の話し合いを行う等、校内の各組織と機能的に連携することができた。さらに評価委員会に推進委員以外の教職員も含めて、オブザーバー参加することによって、協議機会の充実を図ることができた。

(2) 成果目標

ア 部活動への生徒加入率の向上 (80%をめざす)

部活動生徒加入率は、17年度が 72.3%、18年度は 73.2%で、0.9ポイント上昇した。

イ 部活動成績の1ランクアップ

当然、各部とも日頃の練習の積み重ねがあつてではあるが、特に水泳部は毎年近畿大会上位進出と全国大会 (インターハイ) 出場に照準を合わせた活動をしており、ハンドボール部も毎年大阪ベスト8 (シード) の位置を維持しながら上位をめざしている。また、バレーボール部男子は昨年度3部優勝から2部に昇格し、今年度4月には2部優勝から1部に昇格した。女子も現在2部に昇格し1部昇格、上位進出をめざしている。サッカー部は昨年度新人戦でベスト8進出を果たし、着実に力をつけている。他の運動部も各種の大会で好成績をあげている。文化系の各部も、吹奏楽部やフォークソング部、書道部を始め、多くのクラブが意欲的に活動し、内外に評価を得ている。明らかに底上げができつつあり、成績の上でも全体的にランクアップを遂げたものと考ええる。

ウ 各種選考会への候補選手等の被選出数

- ・水泳部：専門部強化選抜選手 男子 1人、女子 2人
- ・ハンドボール部：北地区優秀選手 男子 2人
- ・サッカー部：年間優秀選手 男子 1人
- ・バレーボール部：北地区優秀選手 男女各 1人

(本年度は計 7人、昨年度は計 4人)

エ 第一進路希望の実現率 90%

5月に4年制大学及び短期大学を希望した生徒のうち、合格進学した者は、16年度卒業生は 80.4%、17年度卒業生は 83.4%、本年度卒業生は 92.1%であり、目標数値を上回った。

オ 進路相談利用者数の 30%増

進路相談は、相談室以外に担任によるものも多く、集約することができなかった。しかし、進路保障の一環としての奨学金申込みを進路指導部が

担当しており、「スカラールーム」と呼ぶ相談室を設け、生徒の相談に対応している。スカラールームの利用状況は、昨年度は 33件であったが、今年度は 1月 15日現在で 60件に達しており、既に昨年の 1.8倍を超えている。

カ 生徒相談週間等への参加者数の 10%増

4月は入学して不安の多い新入生を対象に、相談機関の案内や相談室の利用を呼びかけたところ担任からの紹介もあって、3人の生徒及び保護者から比較的深刻な相談があった。例年は深刻なものは 4月当初は1人程度なので、相談組織として学校内での役割が十分認識されてきたと考える。また 9月は夏休み明けで学校生活に不適應を起ししやすい時期であり、行事等により人間関係が複雑に動くこともある。この頃の生徒の相談が今年度は後の相談室登校に繋がっていくことになり、相談週間が生徒支援にうまく機能した成果と考える。

キ 遅刻者数の 30%減

年間遅刻者総数は、16年度は 7470件、17年度は 5074件で前年度比－ 32%であった。本年度は 12月末現在で 3758 件であり同時期の前年度比は－ 4.3%である。

ク 交流参加者 1000人、中学校教員参加 50人目標

・地域自治会の各種イベントへ部活動参加	122人
・中高連携部活動交流参加の本校部員	80人
・地域清掃活動参加の 1・2年生	454人
・高校生のための親学習及び交流参加	365人
・箕面養護学校音楽交流会	26人
・その他の交流	11人
<u>本校からの交流参加者合計</u>	<u>1058人</u>
<u>中学校教員の参加者 (交流部活動)</u>	<u>55人</u>

4 評価委員会による評価と提言

(1) 取組目標の達成度に対する評価と提言

ア 学校生活を支援する教育相談体制の充実

生徒の視点に立ち、生徒に寄り添う指導をめざす取組は評価できる。更に充実・継続を。

イ 学習意欲の向上と確実な学力を身につける学習環境づくり

学力向上と生活指導は車の両輪。指導態勢の一層の強化と教員の研鑽に期待する。

ウ 地域の団体・組織等との連携・交流活動の充実

部活動を中心とした地域連携の取組は高く評価できる。是非継続してほしい。

エ 従来からの取組総括に係る協議機会の充実

毎回、経営革新 PTメンバー等オブザーバー参加があって、報告が聞けたことは具体的でよかった。

(2) 成果目標の達成度に対する評価と提言

ア 部活動への生徒加入率の向上 (80%をめざす)

中高連携部活動交流等を通じた取組の成果が現れていると思う。部活動と学習の両立を。

イ 部活動成績の1ランクアップ

部顧問の地道な指導による着実なレベルアップは素晴らしい。

ウ 各種選考会への候補選手の被選出数

4人から11人へと倍増したことは高く評価できる。

エ 第一進路希望の実現率 90%

第一希望の捉え方の問題はあるが、4大及び短大において目標を上回ったことは高く評価できる。

オ 進路相談利用者数の30%増

スカラールームの取組は評価できる。継続を期待する。

カ 生徒相談週間等への参加者数の10%増

相談室の機能が十分に発揮されたと思う。

キ 遅刻者数の30%減

取組と成果は高く評価できる。さらに声かけを期待したい。

ク 交流参加者 1000人、中学校教員参加 50人目標

本事業の中でも特に力を注がれたものと評価する。自主的な交流参加者増を期待する。

(3) 教育実践に対する評価と提言

ア 教員の授業に関するアンケート

やはり授業は教育活動の中心。本アンケートのような、課題解決のための取組に期待したい。

イ 教育相談体制の充実

取組目標のアに同じ。

ウ 高校生のための親学習「明日の親のための講座」

これまでの教育課程になかったものであり、斬新である。次年度も是非実施・発展を期待する。

エ 中高連携部活動交流

中学生にとっては大変有意義と思う。更に輪を

広げてほしい。

オ 地域連携

多彩な取組努力に感謝している。これからも続けてほしい。

(4) 外部との連携に対する評価と提言

教育実践や取組目標、成果目標に記載されているように、様々な領域の中に位置付けられている。学校一丸となった取組発展を更に期待したい。

IV 19年度への課題と改善点

1 今年度末における学校・生徒の状況

今年度は新校づくりへ向けて、実務的な作業も進む中で、教職員の間に改革の機運が高まった年であった。これに並行して本事業を推し進め、本校は勿論、新校に継承すべき取り組みを継続してきた。生徒たちは、遅刻・服装・頭髪指導や授業を大切にする指導が行われる中で、部活動や地域交流などに取り組み、それらが多くの生徒にとって総合的によい効果を生み出している。一方で力を出し切れない生徒も存在しており、以下の課題や改善点を整理して次年度に望みたい。

2 教育目標の課題と改善点

(1) 取組目標の課題と改善点

ア 学校生活を支援する教育相談体制の充実

今年度は現在の社会的なニーズでもある外部機関と学校との連携に力を入れ、学校内外からの生徒支援ができるような枠組みを作ることに重点を置いたが、相談関係の社会的資源を有効的に活用するには、教職員の意識を一層高めることが求められるうえに、既存の校内体制機能を活性化させていく必要性を痛感した。また、参加体験型の研修を増やし、さらに教職員の資質を高めるとともに、参加者数を増やす。

イ 学習意欲の向上と確実な学力を身につける学習環境づくり

アンケートの実施から共通認識は得られたが、それを共に実践していくための学校全体としての態勢作りが必要になると考えられる。

ウ 地域の団体・組織等との連携・交流活動の充実

現在の方向生を着実に継承・発展させていく。

エ 従来からの取組総括に係る協議機会の充実

本年度の方針をさらに強化する。

(2) 成果目標の課題と改善点

ア 部活動への生徒加入率の向上 (80%をめざす)

目標値をそのまま設定し、さらに向上を目指す。

イ 部活動成績の1ランクアップ

中学3年生が本校を選んで入学してくるときに、一人でも多くの生徒が中学時代に本校での連携・交流活動を経験し、より高い目標意識レベルで部活動に取り組んでいく状況を、各クラブがどれだけ作ることができるかが、競技成績のランクアップに深く関係してくると考える。

ウ 各種選考会への候補選手の被選出数

上記と同様に、個人・団体にかかわらず、入学時から高い目標意識レベルで部活動に取り組む生徒が集まるようなクラブを、運動部に限らず文化部も含めて今後どれだけ増やすことができるか、またその一人ひとりをより高い目標意識レベルで指導し、伸ばしていくことができるかが、大きな課題であり、改善点である。

エ 第一進路希望の実現率 90%

目標値実現に向けてさらに実践する。

オ 進路相談利用者数の 30%増

スカラールーム (奨学金相談室) の活用は有意義であり、利用者も激増した。進路相談は、その集約方法について検討する。

カ 生徒相談週間等への参加者数の 10%増

生徒相談においては担任の果たす役割は非常に大きいものと考えるが、違った視点で対応できる組織も必要である。量的相談回数よりも質的相談回数に重点を置いて、生徒の今現在の悩みだけを聞くだけではなく卒業後も自分で考えて生きていく力を継続的に身につけさせていくことを相談活動の目標課題としたい。

キ 遅刻者数の 30%減

遅刻者数は、16年度から 17年度にかけて大幅に減ったが、18年度は緩やかになった。数値目標を再検討する。

ク 交流参加者 1000人、中学校教員参加 50人目標

次年度も目標を継続する。

3 教育実践計画の課題と改善点

ア 教員の授業に関するアンケート

生徒の努力度や満足度とリンクさせて考えたとき、肯定的に答えなかった生徒へどのように対応していくのか、改めて課題が浮き彫りにされた。

今後、指導力をよりいっそう磨いていくと同時に個々人を越えた共同の取組が必要であろう。また、さらに、課題解決のために公開研究授業や生徒による授業評価を実施して、よりよい授業を目指していくことが求められる。

イ 教育相談体制の充実

取組目標のアに同じ。

ウ 高校生のための親学習「明日のための親の講座」

次年度への継承とカリキュラムのステップアップ、及び交流活動参加者増。

エ 中高連携部活動交流

今年度までは、限られた部活動 (水泳・ハンド・バレ・バスケット) のみの連携・交流活動であったが、今後は文化部も含め、学校全体で幅広く呼びかけ、実践していくことが重要である。

オ 地域連携

これまでの実績に加え、NPOや大学等を含めた広範な地域連携を進めるための組織への位置付け。

4 外部との連携についての課題と改善点

本校では、地域連携と生徒理解を大きな柱として本事業を進めてきた。特に外部との連携については、今後組織に位置付けて丁寧に効率的に進めていく必要がある。

5 その他の課題と改善点 (校内組織の見直し等)

これまでの研究実践をさらに効果的に推し進め、成果を検証するためには、プロジェクトチームと既存組織がもっと有効に連携を強化し、学校全体へ浸透させなければならない。そのためにはプロジェクトチームのリーダーシップが求められる。さらに新校へ継承していくことも重要な課題である。